

1. 評価報告概要表

作成日 平成20年4月23日

【評価実施概要】

事業所番号	1071000267
法人名	有限会社 成栄測量設計事務所
事業所名	グループホーム ティアラ
所在地	群馬県富岡市富岡362-7 (電 話) 0274-62-6800
評価機関名	特定非営利活動法人 群馬社会福祉評価機構
所在地	群馬県前橋市新前橋町13-12
訪問調査日	平成19年10月30日

【情報提供票より】(19 年 10月 10日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 13年 12月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	20 人	常勤 9人, 非常勤	11人, 常勤換算 11人

(2)建物概要

建物構造	木・鉄骨造り		
	2 階建て	1 階 ~	2 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	39,000 円	その他の経費(月額)	光熱費
敷 金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 700 円		

(4)利用者の概要(10月 10日現在)

利用者人数	18 名	男性	3 名	女性	15 名
要介護1	7 名	要介護2	3 名		
要介護3	4 名	要介護4	4 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 84 歳	最低	75 歳	最高	93 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	公立富岡総合病院 公立七日市病院 中村歯科医院
---------	-------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

住宅街に立地し、周辺の家に溶け込むように建ち、自宅で生活を行っているようである。入居者が玄関で外を見ながらおしゃべりしている姿はほほえましい。理念の「ゆったり、一緒に、楽しく、豊かに」が活用されていることが伺える。職員は、入居者の楽しみや痛みなどを一緒に思い考え、毎日生活をしている。これが理念の基となり、職員が毎日のサービスに真剣に取り組む姿につながっているようである。
--

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	運営者や管理者、職員は、自己評価及び外部評価の意義を理解し、積極的に改善に取り組んでいる。玄関ホールに椅子が置き、自由に過ごせる居場所を確保している。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	経営者や管理者、職員は共に、ホームの向上を思い真剣に取り組み、自己評価を行っている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	2ヶ月に1回、運営推進会議を開催している。区長、民生委員、老人会等地域の代表者や入居者家族の代表者が出席している。会議では、ホームの状況や行事内容を説明し、家族、地区の役員の方々よりサービスの質問や希望等の意見が出され、回答したり意見交換をしてサービスの向上に活かしている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	運営推進会議に家族も参加し、定期的に意見交換がなされている。要望等に対する改善は迅速に行なおうとする姿勢が伺える。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	職員と入居者は、近隣の授産施設や子供サロンに出向き交流を行っている。入居者にとっては、孫や曾孫と共に遊ぶようで和やかな雰囲気になれ生活の張り合いが保たれている。地域の祭りや行事に参加したり、ホームの行事に地域の方を招待している。

2. 評価報告書

(☐ 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「ゆったり、一緒に、楽しく、豊かに」を理念に、一人ひとりのペースに合わせたケアを心がけるよう、入居者の立場になって職員間で話し合い作り上げた。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	1日3回のミーティングや月1回のカンファレンスの中で、認知症状ケアに必要な課題について議題若しくは話題にし、理念を基に話し合い、気づきを多く持てるよう心がけている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	職員と入居者は、近隣の子供サロンや授産施設を訪問し、お手伝いや談話を行ったり、清掃活動等の町内の行事に参加している。また、子供サロンの子供をホームに招待している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	運営者や管理者、職員は、自己評価及び外部評価の意義を理解し、積極的に改善に取り組んでいる。具体的に、玄関ホールに椅子を置き、自由に過ごせる居場所を確保している。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、運営推進会議を開催している。区長、民生委員、老人会等地域の代表者や入居者家族の代表者が出席している。会議では、ホームの状況を説明し、家族、地区の役員の方々より意見が出され、サービスの向上に活かしている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営者はサービスの質の向上にむけ、市担当者に連絡をし、相談などを行っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会に見えたときに、入居者の日常の様子を話している。また、月に一度は、入居者の様子を書面で郵送によって報告している。緊急の連絡がある時は、電話で伝えている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議で意見が活発に出ており、その意見を基に運営やサービスに活用している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	ユニット間の異動は、入居者の配置等の都合で行うことがあるが、極力行わないようにしている。万一、職員が入れ替わる場合には、管理者から、入居者の状態に応じた対応についてや明るく楽しい雰囲気です接する等の指導が行われ、ダメージを防ぐ配慮をしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	県主催の研修会や認知症の研修会等の外部研修へ参加している。受講後は、申し送り等で他の職員へ内容を伝達し情報を共有している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣のグループホーム同士の交流やグループホームの県での大会に参加等している。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	家族等の希望に応じて、面会や見学を受け入れている。必要性があれば面接等を繰り返し行い、本人が溶け込めるように努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	ホーム内で、季節の行事を取り入れ入居者に教えて頂く場面もつくり、入居者と職員が楽しみながら行えるよう工夫している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	独自に作成した「ケアチェック・アセスメントシート」を活用し、日々の生活から伺える意向の把握に努め、これに沿うように支援している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居者一人ひとりに担当の職員が付き、アセスメント、モニタリングを行い介護支援専門員と情報を共有し、介護計画を作成している。その際に、家族の意見や要望なども取り入れ反映させている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は、3ヶ月に1度定期的に見直しを行っている。また、毎日のミーティングにおいて入居者の状態の変化等の確認をする中で、必要に応じて介護計画を見直している。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ホーム長が常に滞在しており、通院の付き添い等、緊急の時や職員が対応が困難な場合には代わって行っている。また、会食会等外出の機会を設けている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	病院や医師と密に連絡を取り合い、健康状態等の情報の共有を図っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期の入居者の介護を行った経緯もあり、重度化した場合や終末期の介護のあり方について、家族や医師、職員と話し合う機会を持っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は、どんな場合にも穏やかな言葉かけを行っている。個人情報の取り扱いに注意を払い、書類等整理して管理されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者は、日中多くの時間をデイルームで過ごしている。職員は、入居者のペースに合わせて見守り、必要に応じて言葉をかけたり、手を貸して一緒に行うなどの支援を行っている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員は入居者と同じ食事を一緒に食べ、「今日の味は甘いか」「好みに合うか」等話しながら、家庭的な雰囲気ですぐに食事ができるように努めている。また、食後に食器洗いや拭くことを入居者と一緒に行っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週2回の日中入浴を行っている。希望を聞き、入浴が出来るように支援を行っている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	日々の生活のなかで、洗濯物を干す係り、たたむ係り、食器を洗う係り、拭く係りなど、それぞれ入居者が出来ることを交代で行っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩、スーパーへの食品の買い物、季節に応じたドライブ、地域の施設訪問等、入居者の希望を聞きながら応えている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	運営者や職員は鍵を掛けないケアの重要性を理解しているが、玄関は施錠されている。	○	入居者の行動の様子や職員の見守りの状況を勘案して、まずは施錠しないでも大丈夫な時間を職員と話し合い、少しでも長い時間鍵をかけずにすむよう検討して欲しい。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力を得て、年2回の避難訓練を行っている。内1回は、消火訓練が行なわれている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食材に旬のものを利用し、食が進みやすいように配慮している。一人ひとりの食事摂取量や好みは、チェックノートに記録され、状況を把握し情報を共有している。また、水分の摂取状況は、不足しないよう注意が図られている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関は広く、入居者がくつろげるよう長椅子が置かれている。屋内は採光がとってあり明るく、絵画が飾られている。トイレも広く、落ち着いて入れる環境である。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者個人の馴染みの寝具、鏡台や家具などが配置され、くつろげる環境となっている。		